

裏面白紙

丙
昭和十八年十一月十三日
二一七五

立案 昭和十八年十月四日

決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

勅授

海軍主計中將片岡覺太郎外五名
特旨叙位ノ件

昭和十八年十一月二日裁可十一月十三日達
臺帳記入十一月九日官報報告済

一一



海軍主計中將片岡覺太郎外五名
特旨叙位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和十八年十一月二日
内閣總理大臣東條英機



内

閣

110/3

裏面白紙

人海佐 第四九號
案 起
昭和十八年十一月二日
日 裁可
昭和十八年十一月二日
日 施行
昭和十八年十一月二日
日 決定
昭和十八年十一月二日
日

内閣總理大臣



内閣書記官長

之

内閣書記官



海軍主計中將片岡覺太郎外五名
特旨敍位、件

例 文 辭 令 案

内閣

八十八號 四七九

敍正四位昭和十八年十月五日海軍主計中將從四位片岡覺太郎
豫備役任海軍主計以上
右文武官敍位進階内則第四條ニ依リ
謹テ奏ス

昭和十八年十月二十八日

海軍大臣 嶋田 繁太郎



海軍



	同	是川重之助
	同	
大正三年三月一日 海軍主計少將	在任職十年以上	

同
同
同
同
鈴木常治

右文武官敘位進階內則第四條二依

謹
テ
奏
ス

昭和十八年十月二十八日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

海軍

一五四九

昭和十八年十月十六日 大正十五年七月任朝鮮總督府
敍從四位 依願免官 鐵道局技師以來在職十年以上
元朝鮮總督府鐵道局技師 正五位 寺師 英敏 二等

右文武官敍位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和十八年十月二十八日

朝鮮總督 小磯 國



朝鮮總督府

宗城(若田)

裏面あり

87

本件ハ特旨叙位ニシテ一月ノ日迄ニ
叙就可ラ要スルモノニ付至急御取違相煩シタシ

めくれず

内閣人内位第一五四八

敍從四位 昭和十八年十月十五日 任臺灣總督府法院判官 職以來在職十年以上 退職臺灣總督府法院判官正五位 和田 一郎

右文武官敍位進階内則第四條ニ依リ

謹 テ 奏 ス

昭和十八年 十月二十八日

臺灣總督 長谷川

清



臺灣總督府

上奏書用紙

(日本標準規格 B 4)

88

官
不
官
不

海軍大臣
一三三八

昭和十八年十月二十八日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内閣總理大臣 東條 英機 殿

海軍主計中將片岡覺太郎ハ多年軍職ニ在リテ克ク其ノ任
務ヲ盡シ功績顯著ノ者ニ候處十月二十五日豫備役被仰付
候ニ付テハ特ニ位一級被進度別紙上奏書進達ス

海 軍

(終)

18.10.29
付受

海軍大臣 嶋田 繁太郎

昭和十八年十月二十八日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内閣總理大臣 東條 英機 殿

海軍少將 梶岡 定道 以下三名ハ多年軍職ニ在リテ克ク其ノ任
務ヲ盡シ功績顯著ノ者ニ候處十月二十五日豫備役被仰付候
ニ付テハ特ニ位一級被進度別紙上奏書進達ス

海軍 (終)



特旨敍位

十月十五日

内務大臣官房 甲第 四七二五 號

別紙 寺 師 英 敏 特 旨 敍 位ノ件

上奏書進達ス

昭和十八年十月二十八日

内務大臣 安 藤 紀 三 郎



内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

内務省



特旨敍位

十一月十四日期限

内務大臣官房 甲第 四七二三 號

別紙 和田 一郎 特旨 敍位ノ件

上奏書進達ス

昭和十八年十月二十八日

内務大臣 安藤 紀三郎



内閣總理大臣 東條 英機 殿

内務省



裏面白紙

93

二號野紙

丙發第百六十三號

一海軍中將從四位片岡覺太郎外三名

右本日特旨ヲ以テ敍位相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年十一月十三日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣

宮内省

裏面白紙

二號野紙

丙發第三六四號

元朝鮮總督府鐵道局技師正五位寺師英敏一名

右本日特旨ヲ以テ敍位相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年十一月十三日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

内務大臣

官内省